

すべてを大切にしようとするこ

③ 生命の尊さ(観点)

(2) 主題設定の理由 (略)

(3) 指導計画 (略)

(4) 検証授業案 (略)

① 主題名 生命の尊さ

死の厳かさ………検証授業1

生命の尊さ………検証授業2

② 本時のねらい

死に直面しながら最後まで生き

抜いた人々に対する自分の感じ方

をみつめさせる。

○ 赤ちゃんのもつ様々な力を知

り、生命の尊さについて自分の考

えをもたせる。

③ 授業仮説

「生命の尊さ」についてその指導を学級における指導計画で基盤にして行い、さらに道徳の時間の指導で、指導のプロセスを明確し、資料の自作・改作や提示を工夫した授業を行えば、道徳的心情を育てることができるとであろう。

道徳的心情が育つステップにつながる道徳の時間の指導のプロセス

- 指導のプロセスの明確化
- 資料の自作・改作、提示の工夫
- 書く活動

道徳的心情が育つステップを基盤にした評価

資料2 他領域での指導の時期と内容項目 第4学年2組

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	特に関連を図る内容項目
国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)4(4)
社会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)(4)4(1)(4)(5)
算数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)4(4)
理科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)3(1)2(4)4
音楽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)3(3)4(4)(6)
図工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1)(2)(3)2(1)(3)3(3)4(4)(6)
体育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(2)(3)2(1)(3)4(4)
児童学級活動(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(5)2(2)(3)4(4)
児童学級活動(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1)(2)2(1)(3)(4)3(2)
児童児童会活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4(2)(4)
児童クラブ活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2(2)4(4)
開始・終業式	0		0	0					0	0	0	0	1(2)
式終了式・卒業式												0	2(4)4(3)
学賞教室													2(1)3(3)
学七夕学習発表会					0								3(3)4(6)
学絵をかく会						0							1(3)
健康診断	0	0			0							0	1(1)3(2)
校交通教室	0			0									3(2)4(1)
活安遊難訓練			0							0			3(2)4(1)
全運動会			0										4(3)
行ブル開き				0									
体マラソン大会												0	1(3)
育スキー教室													4(5)
スポーツテスト										0			

資料1

平成5年度 学級における指導計画 (第4学年2組)

特別活動目標

学級における特別活動基本方針

- 自主的な集団活動が開発できるようにする。
- 失敗を恐れず失敗から学ぶことができるようにする。
- 学級活動(1)が自発的に行われるようにする。

児童の実態

児童の関心・保護者の願い

学級目標

学級目標

担任教師の願い

他領域での指導

特に学級活動(1)を通して、自主的、実践的な態度を育て自分で判断し、行動できる児童を育成する。なお、「特別活動の記録」を児童の自己評価と教師の指導資料として活用していく。

学級活動(1) 教師が指導する内容を明確にし、それ以外は児童の手による運営ができるようにする。

学級活動(2) 児童とともに資料を作成したり、視聴覚教材を用いたりして、実践意欲を高める。

児童会活動 活動内容を知り、自分の担う役割を自覚して参加できるようにさせる。

クラブ活動 興味・関心を更に発展させていくため、クラブの運営についての考えをもたせる。

学校行事 目指すものをもって参加し、自己評価をさせ、達成感と次回への意欲をもたせる。

道徳教育目標

学級における道徳教育基本方針

- 道徳の時間が楽しみになるようにする。
- 相手の立場に立った言動を身につけるように努める。
- 家庭や地域との連携を図るようにする。

道徳の時間の指導

視聴覚教材を活用し、児童の興味関心を引き出し、次のねらいで指導していく。

- ① 多くの人に感動を与えてきたものに出会う。
- ② 他の考え方を知り、自分の考えをみつめる。
- ③ 事実を知る。

他領域での指導

中学年の内容項目別に、教科、特別活動、その他の教育活動での指導の場と観点とねらいを計画し、継続的に指導していく。本学級の実態を考慮し、特に3(2)生命尊重3(3)敬けん、1(1)自立、1(4)正義勇気の4点については重点的に指導を行っていく。なお、児童の姿容をとらえるため、日常的に観察メモをとり資料を蓄積して指導にあたる。

● 内容項目別の道徳性の評価
● 児童一人一人の変容

④ 指導過程

(三) 検証授業の実際と考察

① (1) 検証の観点と指導の概要

道徳的心情が育つステップにつながる道徳の時間の指導のプロセスが明確になったか。

② 検証授業1・2ともに、児童の既成概念を崩し、驚きを与えるような資料を通して、自分の考え方や感じ方

を問い直す発問や活動によって、資料の事柄や中心人物に対して、尊敬の念、親しみ、同化、憧れを抱かせるという指導のプロセスを考えた。

③ 検証授業1では、末期ガンの患者

が穏やかに死を迎えるためのホスピス病棟での最後の日々を取材した番組を資料として活用した。この資料を通してガン⇒死⇒弱って動けない、ひどい痛みという印象が一扫され、大きな驚きを感じていた。そして、死⇒不幸というこれまでの感じ方から、そうではない場合もあるのではと自分に問い直していた。さらに、登場人物と同化して、その気持ちを想像していた。検証授業2では、赤ちゃんが生まれる前から様々な力を発揮していることを、出産前から生後一カ月まで取材した番組を資料として活用した。何もできないと思っ